



ニュースレター

Vol. 6

2021年8月

発行：NPO法人えん

住所：伊東市松原771-12

TEL: 0557-32-0117

FAX: 0557-32-0118

ウェブサイト：www.npo-en.org

編集：高田仁里

サポートハウスえん



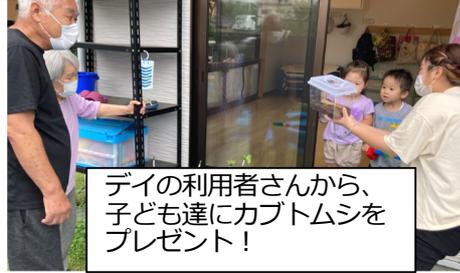
草取りや、野菜の収穫など、屋外で緩やかに交流を続けています。



モルタルで石積みの補修や段差解消など、職人技をご披露いただきました。外仕事の後は炭酸飲料を飲んで爽やかに休息！



洗車の得意な方に、綺麗に洗車する方法を教えていただきました。



デイの利用者さんから、子ども達にカブトムシをプレゼント！



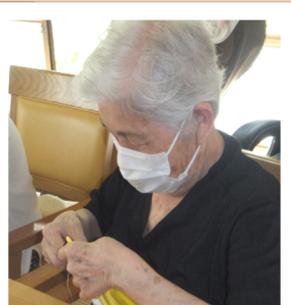
洗濯たたみや、畑の野菜を切ったりなど。



誕生日のお祝いをしました。



新しく入る園児の帽子に名札を縫っていただきました。



お散歩がてら、子ども達のプールを見学。

編集 高田より



7月16日、伊東つくし会さんと合同で、育休退園制度の見直しに関し、市長に要望書を提出してきました。

育休退園制度は、保育園に通っている0~2歳児の子どもがいる親が、新しい子どもを出産し、育児休業を取得した場合、通園しているその子どもは保育園を退園となる制度を言います。本制度は待機児童対策の一環として運用されてきた経緯がありますが、少子化が進行し、待機児童も0に近い状態となった今では見直しが求められています。育休退園を経験した親からは、「子どもは保育園に行けず毎日泣いていた」「新

しい子の世話で、上の子どもに向き合う余裕が持てない」「産み控えをした」などの声を聞いています。行政や保育園の都合だけでなく、「子ども」「親」「地域社会」など様々な視点から制度の意義を問い直していかなければなりません。

本制度がなくなれば、伊東は、より子どもを産み、育てやすい地域に一歩近づいていくでしょう。その中で、保育園が果たせる役割はとりわけ大きいと私は考えています。

小規模保育所えん



夏といたら、プール! 水が苦手な子も、好きな子も、水と遊ぶ時間を楽しんでいます。



畑の野菜もたくさん実っています! 収穫した野菜は家庭に持ち帰る他、スタンプ遊びで使いました。普段は調理済みの野菜に触れることが多いですが、スタンプ遊びを通じて、野菜そのものの形、感触、匂いなど五感を使って野菜に親しみを持っていきます。



粘土遊びをしました。指先を使って粘土の感触を味わう他、子どもたちの自由な創造から、造形をつくり、パン屋さんのおままごと遊びや、へび退治(?) など遊びがさらに広がっていきます。



新しく0歳の子も仲間入り。ミルクをたくさん飲んで、ぐっすり寝て、すくすく成長しています。



朝はお歌や手遊びで、身体を使って表現する時間を取り入れています。

